

特集 林業の未来を担う若者と女性 森のしごと、未来のかたち

林業との関わり方に、新たな選択肢を見出した若者や女性たちがいます。彼らは、これまでの林業がもつイメージに新しい風を吹き込んでいます。今回は、そんな変化のキーパーソンとなる3名にお話を伺いました。



キーパーソン1 しもむらともや 【下村智也さん】

地域の木を活かし、未来を育むため
森林と人をつなぐ会社をつくった社長さん。

森を元気にするしごと

ゆずはらちやう
梶原町で『KIRecub(きりかぶ)』

という会社を運営しています。幼い頃、おばあちゃんが住んでいたの
で、梶原町には兄弟で夏休みのた
びに遊びに来ていました。大人になってから気づいた
のは、林業をする人が減り、山に入る人も少なくなっ
て、むかしと森のようすが変わってきたこと。「この豊か
な森を未来につなぐ仕事したい」と思ったのが、今の
仕事のはじまりです。

KIRecubはまだ苗木のように若い会社ですが、しっ
かり根を張って、地域のみんなどいっしょに育ってい
きたいと思っています。



森を守ることは、未来を守ること

木を伐るだけが林業ではありません。わたしたちは
地域で採れたどんぐりなどの種から苗を育て、植え、そ
して森を育てています。苗が野生のシカやウサギに食
べられないように、防護ネットや柵で守ることも大切な
仕事です。やがて20年、30年とかけて大きく育った木は、
森の健康を保つために間伐という作業で木と木の間を
あけていきます。こうして長い時間をかけて森とともに
歩むこの仕事を、わたしたちは誇りに思っています。

みんなの応援が元気のもと

苗を育てる苗木園は、町のまんなかにあります。さんぽ散歩

の途中で立ち寄りおじいちゃんやおばあちゃん、子ども
園の子どもたちも、「どんぐりの木、元気かな?」と様子
を見に来てくれます。また、イスノキ(別名:ユスノキ)
という、梶原町の名前の由来になった木を育てている
と話す、「懐かしいねえ」「よう育てようねえ」と笑顔
で声をかけてくれます。地元の方が山で採ってきたモ
ミジの苗を「これも育てて」と持ってきてくれることも
あります。

KIRecubの苗木園は、自分たちだけでなく、地域の
みなさんといっしょに育てている場所です。

家族との時間

KIRecubの仕事は、森を育て、守ること。夏場は朝6
時頃から仕事が始まり、昼頃には山を下ります。今の働
き方は、家族とごはんを食べたり、子どもと遊んだりす
る時間も大切にできます。

森の中で過ごす時間と、家族と過ごす時間。どちら
も、今の自分にとってかけがえのない“豊かさ”です。

みんなが加わる林業

今は、林業とちがう仕事をしている会社ともコラボ
レーションしています。森にまつわるノベルティグッズ
と一緒に製作するなど、それぞれの分野の強みや発想
を生かし、力を合わせて“新しいカタチの林業”をつくら
せているところです。

わたしが大切にしている言葉は「森の未来は人の未
来」。森をどう守り、どう活かすかは、わたしたち一人ひ
とりの生き方にもつながっています。これからも、いろ
んな企業とタッグを組みながら、誰もが森に関われる
“みんなの林業”を広げていきたいと思っています。

森づくりに興味のある人は、ぜひ、わたしたちの仲間
になりませんか。あなたの一歩が、森の未来を育てます。



元地域おこし協力隊のメンバーを中心
に、それぞれが前の職業の経験や得意分
野を活かしながら活動しています。



木製品製作担当・はせがわなつき長谷川夏輝です。
森林や林業の魅力を知らうた
めにつくった木製品ブランド「Mori
wo Aruku」の商品には梶原町産材
を使用しています。

株式会社 KIRecub

高岡郡梶原町梶原1455
https://kirecub.jp/



2021年に設立、2024年法人化。造林・
育林、育苗、木製品の製作や森林教育
を行い、異業種とのコラボレーションに
も積極的に取り組んでいる。社名の「KIRecub」は、「立木(KI)」
と「再生(Recycle)」、そして「見習い(cub)」を掛け合わせた造
語。高知県の森林資源を活かし、持続可能なものづくりを目指
すという思いが込められている。

森林教育担当・やまぐちゆうき山口佑貴です。
ユスノキやどんぐりを地域の
みんなと一緒に育てています。



Instagram QR



YouTube QR

この日の取材の様子はこちらから
もりりんチャンネル

